令 和　8年 9月２９日
新潟市立新津第一幼稚園

もみじ

第７号

【ホームページ】http://akihaku-dai1.city-niigata.ed.jp

～園庭のヒガンバナ～

されど　ぞうきん掛け

幼稚園では、間近に迫った運動会に向け、子どもたちは元気に身体を動かしています。勝敗のつく競技では、勝って喜び、負けて悔しがり、「また、やろうよ！」と諦めないで取り組もうとしています。

ちょっと難しいことにも挑戦！

リレーの順番決め

年長と年中の子どもが、2つのチームに分かれてリレーをしています。これまではエンドレスリレーでしたが、目印のビブスを着て、最後に走る人がアンカーということが分かるようになってきました。

アンカーになりたい子どもは、年齢にかかわらず自分から「やりたい！」と申し出ます。次にどういう順番で走るか順番決めが必要になります。年長児が「2番にになりたい人？」と同じチームの子どもに問い掛けます。でも、年中児にとっては、そこまで順番にこだわることなく、問い掛けられても聞いていなかったり、他のことに気持ちが向いていたりしています。年長児は困り顔。聞くことを諦めかけそうになっていました。

そんな時に、子どもたちのやり取りを見守っていた担任が、「みんなに『聞いて！』って言った方がいいよ。」とタイミングを逃さないように声を掛けます。諦めそうになっていた年長児は、気を取り直して、同じチームの子どもと対話しながら、自分たちで 順番を決めていきました。

「みんな、聞いて！」と年長さん

紅白玉、数を比べるにはどうする？

年長児だけならば対話が成立しやすいのかもしれません。でも、異年齢の子ども同士だからこそ、相手の様子や気持ちを察しながら対話しようという姿が生まれるのだと思います。運動遊びを通して、担任からもう少しで子ども同士で「決められそう」という励ましの言葉のパスをもらいながら、対話の経験を積んでいる子どもたちです。

さて、今年の運動会では、ぞうきん掛けを競技に取り入れます。１学期末にみんなで幼稚園の掃除をしているときに、廊下をぞうきん掛けする子どもが出てきたことがきっかけです。２学期からは、当番活動として、給食後に遊戯室のぞうきん掛けを取り入れました。

「ぞうきん掛けは、ただの掃除でしょう！」と思われるかもしれませんが、代表的な粗大運動の一つです。両手で体重を支える、腹筋・背筋で姿勢を保つ、足で床を蹴る、左右交互に手足を動かすという動きを同時に行います。四つん這いの姿勢でバランスを保つために体感が鍛えられます。

また、粗大運動は微細運動を育みます。「字を書く」「箸を持つ」「ハサミを使う」等は、手先を自由に動かすためには身体が安定していることが必要です。

さらに、実は言葉の発達にもつながっています。運動と言葉、一見つながっていないようですが、人間の脳は身体を動かす領域と言葉を司る領域が互いに影響し合いながら発達していくといわれています。

心地よいこの季節、大いに身体を動かすことを楽しみたいものですね。

バルーンをみんなでたたみます

ぞうきん掛けは、難しい？？